

科目ナンバリング コード	CET1007101	授業科目名	日本美術史 A			開講曜日・講時	火曜 1 限		
担当教員名	山名 伸生	授業区分	週間授業	開講年度	2018	開講学期	前期	授業形態 種別	講義
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering			ディプロマポリシー(DP) の説明ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix				
サブタイトル									
日本の仏教美術									
授業の目的・到達目標									
(1)古美術・古文化財に対する関心を持つ (2)日本美術史における基礎的な知識を習得する (3)各時代・流派の「様式」を理解する									
授業の概要									
日本の美術は世界の中でもたいそうユニークな性格をもっている。だが、根底にはアジアに共通するものがある。それは仏教美術である。この大きな基盤の上に、アジア各地に独特の美術が育っていった。したがって、日本の美術をより良く把握するために、まず仏教美術について学び、その後日本美術の特徴を見極めていきたい。									
授業計画									
日本の仏教美術をアジアと関連づけながら通覧し、日本独特の美術の考察へと進む。									
[計画] 1. 薬師寺東塔をめぐる 2. 法隆寺の謎(1) 3. 法隆寺の謎(2) 4. 縄文土器と土偶 5. 弥生土器と青銅器 6. 古墳とハニワ 7. 仏伝と仏教伝来 8. 仏教美術入門 9. 飛鳥・白鳳時代の彫刻 10. 飛鳥・白鳳時代の絵画 11. 天平時代の彫刻 12. 平安前期の彫刻 13. 平安後期の彫刻と仏画 14. 鎌倉時代の彫刻 15. 日本美術の特質・まとめ									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
関西の主要な寺社・博物館等で直接、文化財・作品を拝観・見学するように努めること。									
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)									
特に指定しない。									
参考文献・作品等(購入不要・より深く授業内容を理解するための有用資料)									
授業中に適宜紹介する。									
参考 WEB サイト(サイト名・URL)									

科目ナンバリングコード	CET1009101	授業科目名	東洋美術史 A			開講曜日・講時	火曜 2 限		
担当教員名	山名 伸生	授業区分	週間授業	開講年度	2018	開講学期	前期	授業形態種別	講義
科目ナンバリングの説明ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering			ディプロマポリシー(DP)の説明ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix				
サブタイトル									
山水画と石窟寺院									
授業の目的・到達目標									
(1)文化財の伝来に興味をもてるようになる (2)「山水画」の基本を学び、初歩的な鑑賞ができる (3)仏教美術の様式変化を理解する									
授業の概要									
わが国では近代以降、西洋からの影響が大きくなると、教育現場で東洋美術の歴史や実技を学ぶことがほとんどなくなってしまった。今では多くの西洋の芸術家の名前や作品が一般的に知れわたっているのに対し、東洋については知られていることが極端に少ない。ここではまず、東洋の優れた作品に出会い、興味をもってもらうことを目的としたい。									
授業計画									
まず歴史的文化財が現存していることの意味を考え、広大な東洋美術の中から代表的なジャンルを選んで解説してみたい。まず、中国に生まれた「山水画」をとりあげる。ここには、学ぶべき独特の自然観、宗教観、芸術観、技術がある。さて、東洋の独自性を理解した上で、次に、インドで生まれた「仏教美術」を見てみたい。ある美術ジャンルがアジア各地でどのように受容され、変遷していったかを見ることによって、東洋の共通点や各地の相違点を確認しよう。									
1. 伝世品と出土物(1) 2. 伝世品と出土物(2) 3. 伝世品と出土物(3) 4. 高松塚古墳壁画をめぐる 5. 正倉院の樹下美人図 6. 山水画とは何か 7. 古代中国の宇宙観 8. 山水画前史 9. 白描画と水墨画 10. 山水画の代表作 11. 文人画 12. 山水画の諸相 13. 中国の石窟寺院(雲岡) 14. 中国の石窟寺院(龍門) 15. 飛天の旅・まとめ									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
関西の主要博物館で直接作品を見学するよう努めること。 (京都国立博物館、泉屋博古館、藤井有隣館、白鶴美術館等)									
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)									
特に指定はしない。									
参考文献・作品等(購入不要・より深く授業内容を理解するための有用資料)									
『中国の美術 見かた・考えかた』古田真一・山名伸生・木島史雄編(昭和堂)									
参考 WEB サイト(サイト名・URL)									

科目ナンバリング コード	DGS3003101	授業科目名	デザイン史2			開講曜日・講時	水曜 1 限		
担当教員名	熊倉 一紗	授業区分	週間授業	開講年度	2018	開講学期	前期	授業形態 種別	講義
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix				
サブタイトル									
近代グラフィック・デザインの諸相—歴史・メディア・表現技術—									
授業の目的・到達目標									
(1) 西欧と日本における近代グラフィック・デザインの歴史的な流れを理解する。 (2) 代表的な作家や作品の特徴などを把握し指摘する。 (3) 受講生の今後の制作・実践にとって有意義となるような知見を得る。									
授業の概要									
本講義では、主に 19 世紀から今世紀までの欧米と日本における近代グラフィック・デザインについて、以下の 3 つのポイントに留意しながら考察していきます。すなわち(1)近代グラフィック・デザインが成立していく歴史的経緯を辿ること、(2)近代グラフィック・デザインによる視覚的表現がいかなるメディアや視覚言語で構成されているのかを知ること、(3)近代グラフィック・デザインにいかなる技術や要素が盛り込まれているのかを理解することです。それぞれの時代における社会的歴史的背景も盛り込みながら、グラフィック・デザインを複眼的に理解することが本講義の目的です。									
授業計画									
1. イントロダクション:近代グラフィック・デザインの誕生 2. アーツ・アンド・クラフツ運動:ブックデザインのルネサンス 3. アール・ヌーヴォー①:イギリス・フランス・ベルギーの展開 4. アール・ヌーヴォー②:ユージュントシュティールとウィーン分離派 5. 明治ハイカラ・大正ロマン:日本のアール・ヌーヴォー 6. ロシア構成主義:紙上のアヴァンギャルド 7. バウハウス:教育とデザイン 8. アール・デコ:ポスターの成熟 9. 都市化と大衆:日本のモダン・グラフィックス 10. 撃ちてし止まん:戦中の宣伝・広告 11. 国際タイポグラフィック様式:欧米の視覚言語 12. 消費社会とグラフィズム:戦後のデザイン動向 13. 五輪・万博・高度成長:日本のデザイナー団体 14. レポート提出 15. レポート講評と講義のまとめ									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
配布した資料を用いて予習・復習をすること。授業内に紹介する参考文献から関心のあるものを選んで読み進めること。講義内にて紹介する展覧会などで興味のあるものを鑑賞すること。									
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)									
使用しません。各テーマの概要を示すプリントを配布します。									
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)									
阿部公正監修『カラー版 世界デザイン史』美術出版社、1995 年 フィリップ・B・メッグズ『グラフィック・デザイン全史』藤田治彦監修、淡交社、1996 年 竹原あき子・森山明子監修『カラー版 日本デザイン史』美術出版社、2003 年 新島実『新版 graphic design』武蔵野美術大学出版局、2004 年 アラン・ヴェイユ『グラフィック・デザインの歴史』柏木博監修、遠藤ゆかり訳、創元社、2005 年									
参考 WEB サイト(サイト名・URL)									

科目ナンバリング コード	HCH3501201	授業科目名	日本文学史			開講曜日・講時	木曜 5 限		
担当教員名	加美 甲多	授業区分	週間授業	開講年度	2018	開講学期	前期	授業形態 種別	講義
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク		http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix			
サブタイトル									
説話で知る日本文学									
授業の目的・到達目標									
<p>(1) 説話を通して上代から近現代までの日本文学史の流れや時代背景を把握できる。</p> <p>(2) 説話の有する文学的特性を説明できる。</p> <p>(3) 説話や説話に関連する様々な媒体を通して日本文学を楽しむことができる。</p>									
授業の概要									
<p>日本文学は大きく散文と韻文、もしくは長編と短編に分けられるが、日本文学史の中でも特に短編作品の存在は興味深い。短編作品は一つの話としての「個別」の段階とそれが集合体として集積された「全体」の段階の二層の段階が存在し、読者はその二層の段階を楽しむことができる。そして、しばしば「個別」の段階は「説話」、「全体」の段階は「説話集」と呼ばれる。これが長編作品と大きく異なる部分の一つと言える。また、長編作品も断片的に取り出すことで説話となる場合があり、そういった用例は多く見出せる。</p> <p>本講義では、上代から近現代までの主要な説話を中心に見ていく。その中で、説話の生成過程などについても取り上げたい。できる限り多くの作品や活躍した人物を具体的に取り上げ、説話と関連する絵画資料、音声資料、映像資料なども用いる。楽しみながら日本文学の流れを感じてほしい。</p>									
授業計画									
<p>第 1 回 ガイダンス ― 説話・短編作品とは―</p> <p>第 2 回 説話の誕生 記紀説話から『日本霊異記』まで</p> <p>第 3 回 創造と想像① 文学で遊んでみよう</p> <p>第 4 回 説話の認識 『今昔物語集』など</p> <p>第 5 回 和歌説話① 説話と短編物語</p> <p>第 6 回 創造と想像② 語りや音楽を聴いてみよう(説話と音)</p> <p>第 7 回 和歌説話② 世俗と仏教</p> <p>第 8 回 説話の全盛① 世俗説話集『宇治拾遺物語』など</p> <p>第 9 回 創造と想像③ 能、狂言を観てみよう(説話と映像)</p> <p>第 10 回 説話の全盛② 仏教説話集『沙石集』など</p> <p>第 11 回 説話の特化 近世嚚本</p> <p>第 12 回 創造と想像④ 落語を味わってみよう(説話と声)</p> <p>第 13 回 説話の再生産(芥川龍之介・太宰治など)</p> <p>第 14 回 説話の現代 ショート・ショート(星新一など)</p> <p>第 15 回 まとめ・総括(論文形式の試験)</p>									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
作品を事前に読んでくるなどの予習を課す。									
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)									
特になし。									
参考文献・作品等(購入不要・より深く授業内容を理解するための有用資料)									
野村純一ほか編『日本説話小事典』(大修館書店、2002年)、山口博『こんなにも面白い日本の古典』(角川書店[角川ソフィア文庫]、2007年)、山口仲美『日本語の古典』(岩波文庫[岩波新書]、2011年)、小林保治・藤本徳明『中世説話の人間学』(勉誠出版、2007年)など。詳しくは授業時に指示する。									
参考 WEB サイト(サイト名・URL)									
特になし。									

科目ナンバリングコード	AFA3011101	授業科目名	美術工芸史1			開講曜日・講時	木曜 5 限		
担当教員名	上羽 陽子、三木 哲夫	授業区分	週間授業	開講年度	2018	開講学期	前期	授業形態種別	講義
科目ナンバリングの説明ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering			ディプロマポリシー(DP)の説明ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix				
サブタイトル									
日本版画の展開—近代から現代へ—／文様を通じての染織技術の変遷・文化交流									
授業の目的・到達目標									
<p>(1)わが国の近・現代版画の展開の概要を理解できる。</p> <p>(2)わが国の代表的な版画家とその作品についての知識を深める。</p> <p>(3)インドの染織文様を中心に文様表現のための染色、織り、刺繍といった染織技術、またそれらの歴史的・社会的背景について知識を深める。</p> <p>(4)文化交流と文様との関わりについて理解する。</p>									
授業の概要									
<p>前半と後半に分割し、ふたつの領域の工芸をめぐる歴史的な変遷を紹介する。オムニバス方式授業。</p> <p>【前半：三木哲夫/8回】 日本版画について取り上げる。わが国の近・現代版画の展開を明治時代後期から近年までの流れを概述し、関連のオリジナル作品を紹介しながら、「版画とは何か」を考える。</p> <p>【後半：上羽陽子/7回分】 文様史を紹介する。学外授業(2日間)として、国立民族学博物館(大阪府吹田市)で学ぶ。インドの染織文様を中心に文様表現のための染色、織り、刺繍といった染織技術、またそれらの歴史的・社会的背景について学習し文化交流と文様との関わりについて理解する。</p>									
授業計画									
<p>[1～8回は三木担当、9～15回は上羽担当のオムニバス形式授業です] ※9～15回分は、国立民族学博物館で授業を行う。 日程は2018年6月10日(日)・17日(日)の各日10時15分現地集合、16時30分現地解散。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.授業計画と版画史研究の現状 2.浮世絵版画から創作版画へ 3.近代版画のはじまり(1904～1917) 4.日本創作版画協会の結成とその活動を中心に(1918～1930) 5.日本版画協会の結成とその活動を中心に(1931～1945) 6.現代版画の出版(1946～1956) 7.現代版画の開花(1957～1979) 8.版画の現在(1980～) <p>(授業終了後に、レポート課題を提示する)</p> <ol style="list-style-type: none"> 9.導入—文様表現とは 10.文様表現と染織技術 11.インドの染織文様—刺繍 12.インドの染織文様—染め 13.インドの染織文様—織り 14.文化交流と文様 15.歴史と社会からみる文様 									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
<p>・授業で配布したプリントや参考文献をもとに、週4時間程度の学習を行うこと。</p> <p>・日頃から美術館や博物館、ギャラリーなどに積極的に出かけ、幅広い視点から関心を持つように努めてください。また、積極的に版画のオリジナル作品を鑑賞するよう心がけてください。</p> <p>・身近にある服や日用品などにどこかされている文様にも注目をして、それらの文様の文化背景についても関心をもつように心がけてください。</p>									
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)									
なし									
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)									
授業内で適宜指示、あるいは配布									
参考WEBサイト(サイト名・URL)									
国立民族学博物館 http://www.minpaku.ac.jp/									

科目ナンバリングコード	HCH3627201	授業科目名	日本服飾史			開講曜日・講時	月曜 2 限		
担当教員名	松原 史	授業区分	週間授業	開講年度	2018	開講学期	後期	授業形態種別	講義
科目ナンバリングの説明ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering			ディプロマポリシー(DP)の説明ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix				
サブタイトル									
現代のファッションへと続く日本服飾の歴史～日本の「伝統」を読み解く～									
授業の目的・到達目標									
(1)日本服飾史の流れがイメージを伴って理解できている。 (2)日本の「伝統」の服飾、色彩、技術などとその変化要因に関して一定の理解ができている。 (3)自分の興味関心に基づいたテーマ設定を行い、独自の視点で調査発表を行うことができる。									
授業の概要									
歴史を振り返れば一目瞭然だが、服飾(=ファッション)は時代によって劇的に変化する。身につける服の形状や色彩、髪型や化粧、「美しい」とされるものさえも、時代や環境によって大きく異なる。温暖な気候、豊かな自然、諸外国との交流などにより、日本では世界でもまれに見る、豊かで魅力的な服飾文化が培われてきた。現代でも色褪せない歴史的装束の魅力を紹介するとともに、それぞれの時代の「衣」が映す社会や文化についても学んでいきたい。歴史はインスピレーションの源でもある。皆さんにもぜひ、歴史の中に自分の「お気に入りの」服飾を見つけてもらいたい。									
授業計画									
日本の服飾史は本当に豊かである。それぞれの時代、独自の展開を見せ、「伝統的」とされる装束だけでも時代も様式もさまざまに多岐に渡っている。できるだけ多くの図版と実際の装束を用いながら、日本の服飾の奥深い歴史を西洋との比較を交えて概説する。									
第1回 ガイダンス 日本の伝統装束って? ～ミスユニバースナショナルコスチュームを例に～ 第2回 日本の3大「伝統」装束～平安装束・武家装束・小袖と着物～ 第3回 服飾の歴史～変化の法則～ 第4回 美の歴史～東西の美女と男前～ 第5回 平安装束着付け体験 第6回 日本の文様～有職文様と吉祥文様～ 第7回 日本の文様～完成された「紋」デザイン～ 第8回 伝統装束の解釈と再現～映画「乱」(黒澤明)におけるワダ・エミの衣装デザインを例に～ 第9回 戦装束比較～日本の鎧兜と西洋の甲冑～ 第10回 江戸のオートクチュール「小袖」と江戸のファッションブック「ひいながた」 第11回 和装から洋装へ (コラム:花嫁衣裳と喪服の歴史) 第12回 洋装の定着と現代の服飾分析 第13回 芸能装束の歴史～舞楽・能・歌舞伎装束～ 第14回 世界を魅了した日本の服飾～ジャポニスムを例に～ 第15回 まとめ 授業内レポート									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
参考文献、図版等は適宜授業中に指示するので、各自の興味に従い読み進めること。 また関連展覧会等も紹介するので可能ならば訪れてほしい。 授業日程の後半で、各自興味のあるテーマに関して調べてグループ内でのミニ発表を行ってもらい、それをまとめて学期末の授業内レポートにしておこうと思っている。(これまでのテーマ例としては、ジーンズの歴史、子供服の誕生、ディズニーコスチューム、韓流ファッション分析などがあつた。)									
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)									
特になし。プリント配布予定。									
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)									
八條忠基『素晴らしい装束の世界 今に生きる千年のファッション』誠文堂新光社 増田美子『日本衣服史』吉川弘文館									
参考 WEB サイト(サイト名・URL)									

科目ナンバリング コード	HCH3629201	授業科目名	日本建築史			開講曜日・講時	火曜 3 限		
担当教員名	小出 祐子	授業区分	週間授業	開講年度	2018	開講学期	後期	授業形態 種別	講義
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering			ディプロマポリシー(DP) の説明ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix				
サブタイトル									
授業の目的・到達目標									
授業の概要									
授業計画									
この授業のシラバスは現在作成中です。3/1 に Web 公開予定、郵送での資料ご請求者の方には後送いたします。									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)									
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)									
参考 WEB サイト(サイト名・URL)									
なし									

科目ナンバリング コード	HCH3617201	授業科目名	日本文化史			開講曜日・講時	木曜 3 限		
担当教員名	山本 真紗子	授業区分	週間授業	開講年度	2018	開講学期	後期	授業形態 種別	講義
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix				
サブタイトル									
日本の文化について、京都とかかわりの深いトピックスを題材に学ぶ									
授業の目的・到達目標									
(1)さまざまな「日本文化」について、その歴史的経緯や、発展の背景についての知識を得る (2)今日の「日本文化」のありかたや、今後の発展について、自分なりの考えをもつ (3)京都という地域や、そこでつちかわれてきた「文化」について、具体例をもとに論じることができる									
授業の概要									
近年「日本文化」に関するテレビ番組や雑誌記事が数多く制作されるなど、国内外で「日本文化」に注目があつまっている。しかし、そうしたメディアの情報では、表面的な部分しかとりあげられないことも多い。本講義ではいわゆる「日本文化」について、現在ある事象と、そこにいたる歴史的変遷や背景について学び、「日本文化」について考えるための基礎的な知識を習得することを目標とする。「日本文化」と一言で言っても、分野もさまざまであり非常に幅広い。そのため、京都精華大学があり、受講生にも身近な場所である「京都」を中心におき、「京都」にかかわりの深いものを中心にとりあげる。									
授業計画									
1 インTRODクシヨン—授業のすすめかた、「日本文化」とは 2 日本文化と海外文化1—シルクロード、中国との交流 3 祭りと町衆—葵祭・祇園祭・時代祭 4 「遷宮」というシステム—伊勢神宮・出雲大社・上賀茂神社／下鴨神社 5 お茶と日本人—茶経・茶の湯 男性の社交から女性のお稽古へ 6 みやこの人々の生活—風俗画、洛中洛外図、浮世絵 7 文様にこめられた想い—さまざまな文様とその意味 8 日本文化と海外文化2—南蛮貿易・海外に残る日本美術 9 旅と日本人—参詣、旅行書、ディスカバー・ジャパン 10 伝統工芸のなりたち—江戸時代から現在の課題まで 11 京都の近代化1—どんどん焼けからの復活 12 京都の近代化2—西洋技術の導入・東山の開発 13 伝統と西洋化—京菓子为例に 14 文化をとりまく環境と情報発信—デジタル・アーカイブ 15 まとめ「日本文化」の特色									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
授業内でとりあげるもの以外にも、京都にはさまざまな行事やイベントが常時開催されている(祭、茶会、展示会・展覧会、見学会、ワークショップ etc)。また、観光・旅行でおとずれる以外にも、行くべき場所・おもしろいところはそこかしこにある(寺社仏閣、博物館・美術館、歴史的建造物、遺跡 etc)。メディアやネットの情報だけでなく、できるだけ自分の足で歩き、自分の目で見て、体験すること。まずは京都の町を楽しんでほしい。参考文献は授業内で指示する。									
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)									
とくになし。									
参考文献・作品等(購入不要・より深く授業内容を理解するための有用資料)									
『京都の歴史』学藝書林など京都の歴史に関する通史や地誌類 林屋辰三郎『日本文化史』岩波書店、1988年 ほか。個別テーマに関する文献は適宜授業内で指示する。									
参考 WEB サイト(サイト名・URL)									

科目ナンバリング コード	AFA3013101	授業科目名	美術工芸史2			開講曜日・講時	木曜 5 限		
担当教員名	八田 誠治、岡 佳子	授業区分	週間授業	開講年度	2018	開講学期	後期	授業形態 種別	講義
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering			ディプロマポリシー(DP) の説明ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix				
サブタイトル									
授業の目的・到達目標									
授業の概要									
授業計画									
この授業のシラバスは現在作成中です。3/1 に Web 公開予定、郵送での資料ご請求者の方には後送いたします。									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)									
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)									
参考 WEB サイト(サイト名・URL)									

科目ナンバリングコード	CET1011102	授業科目名	西洋美術史 B			開講曜日・講時	金曜 1 限		
担当教員名	鯖江 秀樹	授業区分	週間授業	開講年度	2018	開講学期	後期	授業形態種別	講義
科目ナンバリングの説明ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering			ディプロマポリシー(DP)の説明ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix				
サブタイトル									
名画から始まる美術の物語									
授業の目的・到達目標									
<ul style="list-style-type: none"> ・近世から近代までの絵画史を代表作とともに理解する。 ・様式的特徴、作者、制作環境など、多角的な鑑賞法を習得する。 ・現代の作品を過去の作例との関連に依拠して分析できるようになる。 									
授業の概要									
<p>本講義では、西欧のルネサンスから十九世紀までの絵画様式を通じて美術史への理解を深めていきます。単に好き嫌いで絵画を判断するのではなく、複数の視点から作品を鑑賞する方法も身につけていきます。絵画には時代や地域ごとの特色がはっきり現われていますから、その特徴を丹念に整理しながら把握していきましょう。</p>									
授業計画									
<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション: 本講義のテーマ、授業の進め方とルール、評価方法・基準の共有 2 本講義の全体像について: 各回のダイジェストによる論点と作品分析法の解説 3 ゴシック: 先駆者ジョット 4 初期ルネサンス: 画僧たちの活躍 5 盛期ルネサンス(1): 北方美術 6 盛期ルネサンス(2): 三大巨匠の黄金期 7 バロック(1): 先駆者カラヴァッジョ 8 バロック(2): フランドル派 9 ロココ: ヴァトーとティエポロ 10 新古典主義: ダヴィッドとアングル 11 ロマン主義: ゴヤ、ターナー、フリードリヒ 12 印象派: マネ、ドガ、ルノワール 13 後期印象派: ゴッホとセザンヌ 14 象徴主義: ラファエル前派の影響 15 本講義の総括、および論文形式のテスト 									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
<p>講義中に紹介した図版、板書、解説をかならずノートに書き留めておいてください。それらの情報をてがかりにして、関心のある事項を参考文献やインターネットでチェックするよう心がけてください。</p>									
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)									
なし									
参考文献・作品等(購入不要: より深く授業内容を理解するための有用資料)									
<p>若桑みどり『イメージを読む』ちくま学芸文庫、2005年(978-4480089076)。 高階秀爾『近代絵画史(上)』中公新書、2017年(978-4121903853)。</p>									
参考 WEB サイト(サイト名・URL)									
Web Gallery of Art : https://www.wga.hu/									